

## 段階確認一覧表

種別	細別	施工時期	確認項目	確認頻度	ISO9001 監督
指定仮設工		設置完了時	使用材料、高さ、幅、長さ、深さ等	1回/1工事	
河川 砂防土工 (掘削工) 道路土工 (掘削工)		土 (岩) 質の変化したとき	土 (岩) 質、変化位置	1回/土 (岩) 質の変化毎	
道路土工 (路床盛土工) 舗装工 (下層路盤)		ブルフローリング実施時	ブルフローリング実施状況	1回/1工事	
表層安定処理工	表層安定処理 路床安定処理	処理完了時	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	一般 :1回/1工事 重点 :1回/100m	
	置換	掘削完了時	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	一般 :1回/1工事 重点 :1回/100m	
	サンドマット	処理完了時	使用材料、基準高、幅、延長、施工厚さ	一般 :1回/1工事 重点 :1回/100m	
パーチカルドレーン工	サンドドレーン 袋詰式サンドドレーン ペーパードレーン	施工時	使用材料、打込長さ	一般 :1回/200本 重点 :1回/100本	
		施工完了時	使用材料、杭径	一般 :1回/200本 重点 :1回/100本	
締固め改良工	サンドコンパクション パイル	施工時	使用材料、打込長さ	一般 :1回/200本 重点 :1回/100本	
		施工完了時	使用材料、杭径、施工位置	一般 :1回/200本 重点 :1回/100本	
固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 セメントミルク攪拌 生石灰パイル	施工時	使用材料、深度	一般 :1回/200本 重点 :1回/100本	
		施工完了時	基準高、位置、間隔、杭径	一般 :1回/200本 重点 :1回/100本	
		薬液注入	施工時	使用材料、深度、注入量	一般 :1回/20本 重点 :1回/10本
矢板工 (任意仮設を除く)	鋼矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板1枚 更に 一般 :1回/150枚 重点 :1回/100枚	
		打込完了時	基準高、変位		
	鋼管矢板	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否	試験矢板1枚 更に 一般 :1回/75枚 重点 :1回/50枚	
		打込完了時	基準高、変位		
既製杭工	既製コンクリート杭 鋼管杭 H杭	打込時	使用材料、長さ、溶接部の適否、杭の支持力	試験杭1本 更に 一般 :1回/10本 重点 :1回/5本	
		打込完了時 (打込杭)	基準高、偏心量	試験杭1本 更に	
		掘削完了時 (中堀杭)	掘削深さ、杭の先端土質	一般 :1回/10本	
		施工完了時 (中堀杭)	基準高、偏心量	重点 :1回/5本	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況		
場所打杭工	リバース杭 オールケーシング 杭 アースドリル杭 大口径杭	掘削完了時	掘削長さ、支持地盤	試験杭1本 更に 一般 :1回/10本 重点 :1回/5本	
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との対比	一般 :30%/1構造物 重点 :60%/1構造物	
		施工完了時	基準高、偏心量、杭径	試験杭1本 更に	
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況	一般 :1回/10本 重点 :1回/5本	

種別	細別	施工時期	確認項目	確認頻度	ISO9001 監督
深礎工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	
		掘削完了時	長さ、支持地盤	一般:1回/3本 重点:全数	
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との 対比	1回/1本	
		施工完了時	基準高、偏心量、杭径	一般:1回/3本	
		グラウト注入時	使用材料、使用量	重点:全数	
オープンケーソン基礎工 ニューマチックケーソン 基礎工		鉄沓据え付け完了時	使用材料、施工位置	1回/1構造物	
		本体設置前(オープンケーソン)	支持層		
		掘削完了時(ニューマチックケーソン)			
		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	
鋼管井筒基礎工		打込時	使用材料、長さ、溶接部の 適否、支持力	試験杭1本 更に 一般:1回/10本 重点:1回/5本	
		打込完了時	基準高、偏心量		
		杭頭処理完了時	杭頭処理状況		
置換工(重要構造物)		掘削完了時	使用材料、幅、延長、置換 え、厚さ、支持地盤	1回/1構造物	
築堤・護岸工		法線設置完了時	法線設置状況	1回/1法線	
砂防ダム		法線設置完了時	法線設置状況	1回/1法線	
護岸工	法覆工(覆土施工 がある場合)	覆土前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	1回/1工事	
	基礎工・根固工	設置完了時	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	1回/1工事	
重要構造物 函渠工(樋門・樋管を 含む) 躯体工(橋台) RC躯体工(橋脚) 橋脚・フィンク工 RC擁壁 砂防ダム 床止・床固 堰本体工 排水機場本体工 水門工 共同溝本体工		土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	
		床掘掘削完了時	支持地盤(直接基礎)	1回/1構造物	
		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との 対比	一般:30%/1構造物 重点:60%/1構造物	
		埋戻し前	設計図書との対比 (不可視部分の出来形)	1回/1工事	
もたれ式擁壁工 (背面型枠が不用な場 合)		床掘掘削完了時	支持地盤(直接基礎)	1回/1構造物	
		コンクリート打継目毎打設 完了	基準高、高さ、幅、厚さ	一般:1回/1工事 重点:1回/100m	
躯体工 RC躯体工		沓座の位置決定時	沓座の位置	1回/1構造物	
床版工		鉄筋組立て完了時	使用材料、設計図書との 対比	一般:30%/1構造物 重点:60%/1構造物	
鋼橋		仮組立て完了時 (仮組立が省略となる場合 は除く)	キャンパー、寸法等	1回/1構造物	

種別	細別	施工時期	確認項目	確認頻度	ISO9001 監督
ポストテンションT(桁) 製作工 プレキャストブロック桁 組立工 プレビーム桁製作工 PCホロースラブ製作 工 PC版桁製作工 PC箱桁製作工 PC片持箱桁製作工 PC押し箱桁製作工 床版 横組工		プレストレス導入完了時 (横締め作業完了時)	設計図書との対比	一般 :5%程度/総ケーブル数 重点 :10%程度/総ケーブル数	
		プレストレス導入完了時 (縦締め作業完了時)	設計図書との対比	一般 :10%程度/総ケーブル数 重点 :20%程度/総ケーブル数	
		PC鋼線 鉄筋組立て完了 時 (工場製作を除く)	使用材料、設計図書との 対比	一般 :30%程度/1構造物 重点 :60%程度/1構造物	
トンネル工	掘削工	土(岩)質の変化した時	土(岩)質、変化位置	1回/土(岩)質の変化毎	
	支保工	支保工建込完了時 (支保工変化)	吹き付けコンクリート厚、 ロックボルト打込み本数及 び長さ	1回/支保工変化毎	
	覆工	施工時(構造の変化時)	設計図書との対比	1回/構造の変化毎	
	インバート工	鉄筋組立て完了時	設計図書との対比	1回/構造の変化毎	
ダム工	各工事ごと	各工事ごと別途定める	各工事ごと別途定める	各工事ごと別途定める	
鋼板巻立て工	フーチング定着ア ンカー穿孔工	フーチング定着アンカー挿 孔完了	施工状況の適否、設計図 書との対比、深さ	一般 :30%程度/1構造物 重点 :60%程度/1構造物	
	鋼板取付け工 固 定アンカー工	鋼板建て込み固定アン カー完了	建て込み状況の適否、設 計図書との対比、使用材 料		
	現場塗装工	塗装前、塗装完了時	施工状況の適否、塗膜 厚、使用材料及び使用量	1回/500㎡	
アンカー工			削孔完了時・アンカー定着 後	5本に1本の割合	
塗装工	現場塗装	ケレン完了後各層、各塗り 後	施工状況の適否、塗膜 厚、使用材料及び使用量	1回/500㎡	
コンクリート吹付工 厚層基材吹付工		法面清掃完了時	施工状況の適否	一般 :30%程度/1工事 重点 :60%程度/1工事	
		ラス張完了時 (ラスの位置、アンカー鉄 筋、検測ピン確認)	ラスの位置、アンカー鉄 筋 検測ピンの径・長さ及 び本数		
下水道	開削工	管布設完了時	施工状況の適否	1回/構造の変化毎	
	推進工	推進完了時	施工状況の適否		
	シールド工	セグメント組立完了時 2次覆工完了時	施工状況の適否	1回/100m	
	立坑工	立坑完了時	支持地盤、寸法、施工状 況	1回/1立坑	
	人孔築造工	鉄筋組立て完了時 築造完了時	施工状況の適否、設計図 書との対比、使用材料	1回/1構造物	

注) 1 ISO監督工事において立会いが必要とされていない工種(欄中に記載)についても、監督員が必要とした場合は段階確認を実施することとする。

2 表中の「確認の程度」は、確認頻度の目安であり、実施にあたっては工事内容及び施工状況等を勘案の上各工事毎設定することとする。

なお、1ロットとは、橋台等の単体構造物はコンクリート打設毎、函渠等の連続構造物は施工単位(目地)毎とする。

3 一般工事・重点監督以外の工事

重点監督:下記に該当する工事

- イ 主たる工種に新工法、新材料を採用した工事
- ロ 施工状況が厳しい工事
- ハ 第三者に対する影響のある工事
- ニ その他

4 上記表中に記載がない工種については、種別・細別・時期及び報告義務を特記仕様書に記載する。